

## 「福祉世論」の形成に関する基礎的研究

○梅花女子大学 玉置 好徳 (会員番号 002061)

キーワード：福祉世論、生活保護パッシング、福祉メディア・リテラシー

### 1. 研究目的

本研究の目的は、福祉に関する世論の現状と課題を明らかにしたうえで、偏りなく安定した「福祉世論」を形成するための福祉教育論を構築することである。

その設定理由は、わが国において福祉に対する世論の支持は高いとみられているが、実際には分野などによって偏りがあり、それが財政抑制などのための世論操作に利用される危険もあるからである。だが、従来の福祉教育論などでは、この点に対する目配りが十分なされていたとは言い難い。

よって、不偏不党の福祉世論形成を志向する、新たな福祉教育論が必要だと考える。

### 2. 研究の視点および方法

本研究の視点および方法は、従来の社会福祉学の知見に、情報メディア学および世論分析などの知見も取り入れつつ、以下の順序で考察を進める。

(1) これまでの福祉と世論の関係を整理して、(2) 「福祉世論」を概念規定したうえで、(3) これを形成するための福祉教育論について考察する。

以上につき、文献および公的機関・団体などが提供する資料などにもとづき検討する。

### 3. 倫理的配慮

本学会の「研究倫理指針」に則って研究および発表を行う。とくに「A 引用」「F 二重投稿・多重投稿」「G 学会発表」などが、本研究に該当すると思われるので、これらについて厳守する。

### 4. 研究結果

福祉と世論の関係について、これより小規模で範囲を限定した意識調査などは多数実施されているが、これに真正面から取り組んだ研究は、わが国ではまだ希少と見受けられる。

そのなかでも堀江孝司は、世論において福祉は高い支持を得ているものの、生活保護については受給者に対するイメージによって左右される傾向があると指摘している。(堀江：2012)

これを裏付けるかのごとく、2012年に有名芸能人の生活保護費不正受給疑惑を発端とし

て、大手週刊誌やテレビのワイドショー番組などがこぞってこれを糾弾し、さらに一部の市民が SNS などを通じてそれに賛同した「生活保護バッシング」が発生し、これを時機に投じたかのごとく生活保護制度改正が実施されたのは、まだ記憶に新しいところである。

その背景には日本国民などの胸中に、憲法に謳われた生存権にもとづく最後のセーフティネットであることへの理解と、その利用に伴うスティグマはまず避けられないという認識とが併存しているという、二律背反があることを指摘できるだろう。(青木 2010 : 245)

ならば、今般の生活保護バッシングは、これを利用して難なく保護基準を引き下げるなど、「計画された政治的行動に対する大衆の支持を確固としたものにするために、かれらが当該の行動を受け入れるための素地を作っておく」ことを目的とした、「準備的プロパガンダ」(Krippendorff=1989 : 14) だった可能性を否定できない。

したがって、このような扇動に惑わされないような、確固とした福祉世論を形成する必要があるといえる。

## 5. 考察

ところで堀江は、「有権者は、政策についての情報に接するうちに、たとえば目先の利得よりも中長期的な展望を優先するようになるといったかたちで、政策に対する選好を変容させることがある。」(堀江 2012 : 92) とも述べている。すなわち、世論は「学習」するのである。

それを促進するには、一般的には「市民がメディアを社会的文脈でクリティカルに分析し、評価し、メディアにアクセスし、多様な形態でコミュニケーションを創り出す力」としての「メディア・リテラシー」(鈴木 1997 : 8) が、教育的効果を発揮すると思われる。

ただしそれだけでは、ときに根強いスティグマを克服しながら福祉世論を形成するのに十分とはいえないのであって、それとこれまで地域に根差して培われてきた福祉教育を融合させることによって、「福祉メディア・リテラシー」という新しい福祉教育論を構築することが必要だと考える。

### 《引用文献》

- 青木 紀 (2010) 『現代日本の貧困観—「見えない貧困」を可視化する—』明石書店  
 堀江孝司 (2012) 「福祉政治と世論：学習する世論と世論に働きかける政治」宮本太郎編『福祉+α2 福祉政治』ミネルヴァ書房  
 Krippendorff, Klaus (1980) Content Analysis. (=1989, 川上俊治・椎野信雄・橋元良明訳『メッセージ分析の技法—「内容分析」への招待』勁草書房)  
 鈴木みどり (1997) 「メディア・リテラシーとは何か」鈴木みどり編『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』世界思想社